

令和 6 年度第 2 回
東京都江戸東京博物館資料収蔵委員会
資料評価部会（工芸品・生活民俗部会）

令和 6 年11月29日（金）
東京都江戸東京博物館リニューアル準備室会議室

午後 1 時54分開会

福田文化施設担当統括課長代理：本日は皆様、お忙しいところありがとうございます。定刻前ですが、お集りいただきましたので始めさせていただきますと思います。

ただいまから、令和 6 年度第 2 回東京都江戸東京博物館資料収蔵委員会資料評価部会（工芸品・生活民俗部会）を開催いたします。

私は、東京都生活文化スポーツ局文化振興部文化施設担当の課長代理をしております福田と申します。よろしくお願いいたします。本会の司会を務めさせていただきます。

資料収蔵委員会には、収集部会と評価部会がございます。収集部会は江戸東京博物館の収蔵品としてふさわしいか否かを付議する部会、また、評価部会は江戸東京博物館の収蔵品としての価格を個別の委員の方々に評価いただく部会となっております。

本日の評価部会に先立ちまして、11 月 22 日に収集部会を開催いたしております。当部会でお諮りする案件につきましては、当館へ収蔵することが適切であるという御意見をいただいております。

本日は、都民の財産となる貴重な資料にふさわしい適正な価格評価をよろしくお願いいたします。

次に、本日御出席いただきました委員の皆様を御紹介させていただきます。私から向かって左の席から順に御紹介させていただきます。

小池委員でございます。

小林委員でございます。

杉山委員でございます。

長塚委員でございます。

なお、岡野委員については、事前に御欠席の御連絡をいただいております。

続きまして、事務局職員を紹介いたします。江戸東京博物館事業企画課長の新田でございます。

次に、お手元の資料の御確認をお願いいたします。

一番上にございますのは「会議次第」。続いて、A 4 縦判の「東京都江戸東京博物館収蔵委員会資料収集部会 委員名簿」、「東京都江戸東京博物館収蔵委員会設置要綱」。続きまして、「令和 6 年度第 2 回資料収蔵委員会資料評価部会（工芸品・生活民俗部会）説明資料」。次は A 3 横判になりまして、「令和 6 年度第 2 回資料収蔵委員会資料、資料評価部会（工芸品・生活民俗部会）」、一番下が、同じ A 3 横判で、「令和 6 年度第 2 回資料収蔵委員会資料評価部会（工芸品・生活民俗部会）評価票」となっております。

不足等ございませんでしょうか。

お手元の資料につきましては、現時点で未公開の情報がございますので、会議終了後、回収をさせていただきます。

議事に入る前に、当部会の公開について確認をさせていただきます。

本日の議事は評価対象資料の価格評価に関するものですので、「東京都江戸東京博物館資料収蔵委員会設置要綱」第11に基づきまして、非公開といたします。

なお、当部会の議事録につきましては、資料収集決定後、委員の皆様の個別の価格評価

を除きまして公開を予定しております。公開に当たりまして、委員の皆様には追って内容の確認をさせていただきます。また、委員の皆様のお名前と現職名は東京都のホームページ上に公開しております。

それでは、議事に入りたいと思います。

江戸東京博物館事業企画課長の新田より、本日は皆様に評価いただく資料の御説明をさせていただきます。

新田事業企画課長：それでは、今回御評価いただく資料について御説明を申し上げます。

A4の「令和6年度第2回資料収蔵委員会資料評価部会（工芸品・生活民俗部会）説明資料」を御覧ください。

1件目の資料は、「縹糸威胴丸具足」でございます。

兜の吹返及び杏葉の金物、具足櫃の雨皮に三つ葉葵紋が据えられることから、徳川家または松平家にゆかりがあるとされる胴丸具足です。復古調の特徴を持った星兜と2種の袖、面具などの小具足がそろいます。現所蔵者には紀伊徳川家の旧蔵と伝わります。

兜のしころ、草摺、2種の袖、喉輪と頬当の裾板には、鍍金菊唐草透彫の裾金物を打ち、いずれも裏は金箔押となっております。加えて、籠手、佩楯、満知羅の家地と脛当の大立拵の裏には深緑地雲龍文錦の共裂が使われていることから、これらがそろえて仕立てられたものであることが推察されます。

当館では、紀伊徳川家伝来の具足を2領、水戸徳川家の分家に伝来した具足を1領、伊予西条藩松平家伝来の具足を1領所蔵しております。徳川家及び松平家に関わる具足群をより充実させる資料と言えます。

2件目の資料は、「萌黄匂威腹巻具足」でございます。

革札仕立てで、背面引合せとした腹巻です。大袖、三つ鍬形の筋兜、籠手、佩楯、脛当などの小具足を完備しております。兜の鉢裏には、「明珎紀宗周」、「安政三年丙辰四月日」、頬当に「明珎紀宗周」の銘が切られていることから、江戸の明珎宗周の製作であることが分かります。

兜、鍬形台、吹返、胴や籠手の金物は全て鍍金梅樹文高肉透彫となっております。また、付属している背板が胴と同じ仕立てであること、籠手、佩楯、篠脛当の家地がいずれも紅地梅花文錦であることから、これらが一そろいの小具足であると推察できます。

保存状態は良好で、武具としてだけではなく工芸品としての完成度も高いものです。当館では、宗周の師である明珎宗保が手がけた具足を所蔵しており、関連資料の補填となります。

3件目の資料は、「縹糸威五枚胴具足」でございます。

頭形の兜に、五枚胴、袖、半頬、籠手、佩楯、脛当を付属する縹糸威の具足です。

兜の前立と杏葉に丸に四つ目結の文を据え、兜の吹返に桐文を据えます。草摺の裾板には、丸に四つ目結文と桐文の2つを据えています。袖は冠板を藻獅子韋包とし、金物を銀の枝菊文透彫といたします。籠手、佩楯、脛当の家地は紅地蜀江錦です。

総体に出来がよく、兜をはじめ漆に艶があり、金具廻の銀の光沢も美しく、保存状態は良好です。特に、胴の胸板をはじめとした金具廻は、銀地で菊唐草文に四つ目結文、桐文を線彫としていて非常に珍しい仕立てとなっております。

金物に四つ目結文と五七の桐文が用いられることから、対馬藩宗家などとの関連が想像されます。当館では、対馬藩宗家伝来の火事装束や文書、道具類などを所蔵しており、今後さらに、同家や大名家に関する研究に資することが見込まれます。

4 件目の資料は、「紫裾濃威大鎧」です。

江戸時代後期に流行した復古調の大鎧で、四方白の星兜に鍬形を挿し、鎧と大袖の三つ物に頬当や籠手などの小具足をそろえます。兜のしころ、胴の草摺、袖、佩楯の裾板などには、鍍金の波に鳥文高肉透彫の金物を据えており、華やかな仕立てです。

兜の鉢裏は矢筈の丸に三巴盤絵繋ぎ文章を貼り、弦走などの画韋は大柄の獅子牡丹文です。籠手は義経籠手に準じます。こうした意匠は、古宝物図録集の「集古十種」を参考に製作されたものと推測されます。

伝来の詳細は不明ながら、兜の吹返と梅檀、鳩尾の板には丸に三本開き扇が据えられています。今後研究を進める上で、伝来の詳細を明らかにする手がかりになることが期待されます。

5 件目の資料は、萌黄糸威二枚胴具足でございます。

兜の吹返及び具足櫃の雨皮に平四つ目結文が据えられていることから、丸亀藩京極家にゆかりがあると推測される具足です。

星兜、広袖のほか、頬当、籠手、佩楯、脛当、脇曳が付属しているということと、胴は鉄の板札を左脇で蝶番留とした2枚胴で、上端を小札頭と連山道頭に行っている点が特徴的です。

兜の眉庇や吹返は、藻獅子韋に菖蒲韋の小縁と伏縫が施されますが、胴の金具廻は叩き塗金箔押、袖の冠板は藻獅子韋貼のみで、小縁・伏縫はなく、草摺と袖の畦目の配色が異なるつくりとなっております。

上記1から5までの5領は、いずれも常設展示「武家の文化」や、武家に関する特別展などに活用が見込まれるほか、徳川家や大名家の具足に関する調査研究に資することが期待される資料でございます。

審議指導についての御説明は以上でございます。

福田文化施設担当統括課長代理：ありがとうございました。

御質問、御意見等ございますでしょうか。

それでは、次に評価方法のほうを御説明いたします。評価票、一番下に欄がございますけれども、金額を記載して署名をいただきます。評価額の最高価格と最低価格を除いた価格の平均値を委員会としての評価額といたします。

何か御質問、御意見等ございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは、これから資料の実見をお願いしたいと思います。係の者が御案内いたしますので、お隣の2つとも部屋に御移動をお願いいたします。

(委員離席)

(資料実見)

(委員着席)

福田文化施設担当統括課長代理：ありがとうございました。

議事を再開させていただきます。

資料を御覧になって何かこの段階で御質問等ございますでしょうか。

長塚委員：館のほうに絵画資料が、あるいは古文書でも行列というかそういうもの所有されていますでしょうか。

新田事業企画課長：そうですね。一般的な行列を描いた絵巻等は所蔵してございます。

長塚委員：武装した絵画とか。

新田事業企画課長：合戦絵巻などはございますが、鎧を着装している武士を中心に描いた屏風や絵巻の所蔵はございません。

福田文化施設担当統括課長代理：ありがとうございます。

よろしければ、お手元の評価票のほうに価格評価と御署名をお願いいたします。ペンで御記入いただければと思っております。消費税込みの金額となります。

(評価票記入)

福田文化施設担当統括課長代理：御記入がお済みの場合は係の者が確認をいたしますので、お声がけをいただければと思います。確認が終わりましたら御退席いただけます。

本日はありがとうございました。

なお、会議資料とともに、今年度開催しております江戸東京博物館の巡回展の図録を机上に置かせていただいております。御希望ございましたら、後日郵送させていただきます。そのまま置いていただければと思います。お持ち帰りの場合は紙袋のほうを御用意いたします。

午後2時49分閉会

以上